

HPV(ヒトパピローマウイルス)について

HPV(ヒトパピローマウイルス)は、皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスです。皮膚と皮膚(粘膜)の接触により感染するウイルスで、子宮頸部には性交渉によって感染すると考えられています。

性交渉の経験のある女性であれば、約80%が一生に一度は感染していると言われています。

★ 子宮頸がんの原因

HPVは、100種類以上ありますが、このうちの約15種類の「高リスク型」と呼ばれるごく一部のタイプが子宮頸がんを引き起こします。

高リスク型	16 18 31 33 35 39 45 51 52 56 58 59 など
低リスク型	6 11 30 34 40 42 53 54 61 68 など

- ◎ 高リスクタイプの16・18型の2種類は他のタイプより特に子宮頸がんになりやすく、子宮頸がんの患者の約70%からこのタイプのHPVがみつかっています。
- ◎ 低リスクの6・11型は良性のイボや尖圭コンジローマの原因になっています。
- ◎ 6・11・16・18型のHPVを予防できるワクチンが発売されています。詳しくは子宮頸がん予防ワクチンをご覧ください。

★ HPVに感染するとどうなるの？

HPVに感染しても症状がない場合が多く90%以上は一時的な感染のみで、自分の免疫の力で自然に体の外へ排除することができます。

★ 感染しているか知ることはできるの？

通常の子宮頸がん検診と同じで子宮の入り口の細胞を使って、HPVに感染しているかどうかを検査すると共に、どの種類のHPVタイプに感染しているかを調べることができます。

HPVリスク判定

高リスクタイプに感染しているかどうかを確認する検査で型別は分かりません。子宮頸がん検査でベセスダ方式の判定がASC-USだった方は保険適応です。

HPV型別判定

HPVに感染しているかどうかだけでなく、低・高リスクのどの型に感染しているかどうかまで分かる検査です。

基本的には自費の検査になります。